



平和について考える

校長 芝原 には

夏休みも終わりが近づきました。どんな夏休みだったでしょうか。パリオリンピックでの日本選手の活躍に寝不足になった方も多かったのではないのでしょうか。昨年度の開校150周年記念式典で御講演いただいた小山田裕二さんをテレビで見つけて、オリンピックがぐっと近くなったように感じたのは、私だけでしょうか？



さて、8月1日の出校日。毎年、この日は「平和」について考える日になっています。今年は、町内にお住まいの「語り部」の方に来ていただき、戦争体験を話していただきました。戦争中は、食べるものがなくて、イモの蔓まで食べていたことや灯火規制のため、ランプで明かりを採っていたことなど、実物を見せながらのお話は、ずしっと重いものがありました。子供たちが書いた感想も、今おなかいっぱい食べられることや自由にゲームや遊びができることがいかに幸せなことなのか分かった

という内容が多かったです。第2次世界大戦の体験者の高齢化が進み、生の声での体験談を聞くことが難しくなっている今、どうやって語り継いでいくかを考えるのは、今を生きる私たちに与えられた使命なのではないのでしょうか。

「平和の祭典」であるオリンピックに「難民選手団」が存在することを子供たちはどう感じたのでしょうか。卓球の早田ひな選手が、今、行ってみたい場所として「特攻記念館」をあげていました。オリンピックである彼女が、オリンピック直後に「行ってみたい。」と感じたのはなぜなのでしょう。オリンピックがあった年だからこそ、真剣に考え、新たな気づきになって欲しいと思います。

さて、本校では、9月第1週を「いじめ問題を考える週間」としています。5日(木)の授業参観は「心の教育の日」として、2学級とも道徳の授業を公開します。7月の学校生活アンケートでもいやな思いをしたことを話してくれた子がいました。脳科学的に見ても、社会学的に見ても人間社会からいじめや差別はなくなると言われています。でも、なくしていかなければならない。どうするか…相手の立場でものを考え、理性を働かせるしかないのです。相手の気持ちにただ共感するだけでなく、相手と自分の区別をしっかりと持った上で相手の気持ちを想像できるようになったとき、人は、自分がどう振る舞えばよいか考えられるのではないのでしょうか。道徳の時間が、その学習の場となることを願っています。

サンライフ通信

8月10日、古市家住宅で「古市家塾」を開催しました。今回は、「ミニ提灯づくり」にチャレンジしました。今回は、お盆に近かったこともあって、他校からの参加者はありませんでしたが、個性豊かな作品ができました。26日15時まで古市家住宅に展示しています。



<秋季大運動会について>

8月1日の打ち合わせ会で、今年の校区合同秋季大運動会も昼食無しの半日開催で実施することになりました。昨年度、いろいろな御意見がある中で、校区として決断したことを尊重していただき、感謝申し上げます。昨年度の実績をもとに、種目の見直しも行いましたので、御協力よろしくをお願いします。

